

# 第67回北海道公立小中学校事務研究大会

## 第4分科会

### 「領域と学校間連携のフィードバック」

～あとは新しい風が吹き波を待つだけ～

別冊資料

#### 資料内容

領域・二本立て運営計画・学校間連携についてのアンケート

旭川市公立小中学校事務職員協議会

第3グループ



問5 問4でア理解していると答えた方に質問します。

教職員に説明し理解を得ていますか。

ア 教職員には説明していない。21名

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
名	名	名	9名	6名	3名
期限付き					
名	名	1名	2名	名	名

イ 自分では理解しているが領域が難解で説明できない。5名

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
名	名	名	1名	3名	名
期限付き					
名	名	名	1名	名	名

ウ 説明して理解を得ている。2名

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
名	1名	名	名	名	1名
期限付き					
名	名	名	名	名	名

・無回答1名

どのような説明をされたのか、具体的にお書きください。

・運営計画等に記載してある。また他の教員が職会で私の仕事について発言してくれたことがある。(20代期付)  
・年度初めの職員会議で「事務職員は単なる事務屋ではなく、子どもたちの生活の場である学校の環境改善を全職員とともに創っていく事が本来の仕事だ。」と提案し、理解を得ている。(再)  
・教職員に対して、「領域」という言葉では説明はしていません。「事務職員の本来の業務」として説明しています。(50代正)  
・一度もしたことないし、しようと思わない。(40代正)  
・古い概念であり、説明する意味は全く感じない。「チームとしての学校」が、領域の現在の形だと思う。(40代期付)  
・事務職員でも良く分からないという人がいる中で、教員に説明して理解されるかが疑問。教員には給与や旅費・サービス等の実務的な話は受けるが、事務職員の職務について説明しても興味を示さない。(再)  
・個々の事務職員の理解の仕方がちがうのに、教職員の理解は得られない。というか、その事にどんな意味があるのだろうか。(50代正)  
・事務職でもむずかしい理屈を、教員に話しても分かるはずがありません。それだけでなく「事務の立場 - 後方支援？」がひとり歩きしており、そんなどころの話ではないと思います。(50代正)

領域の理解度は40代では約19%、50代は約21%、30代以下は0%でした。理解していないのは30代以下で約11%、40代は約15%、50代は約5%です。領域を理解して教職員に説明が出来たのは20代と60代の二人でした。

問6 領域を理解していないために日常の業務で困る事がありますか。

ア ある    イ ない    ・無回答または分からない**10名**  
**5名(10%)**    **36名(71%)**    ・日常業務では困らないが、領域を理解することは必要では。

ア ある

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
名	名	名	1名	1名	名
期限付き					
名	1名	1名	1名	名	名

イ ない

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
1名	1名	名	14名	11名	5名
期限付き					
名	名	3名	1名	名	名

問7 問6でアあると答えた方にお聞きします。それはどんな時ですか。

・日常の業務で困る事がありますが、それが領域を理解していないためなのかが、はっきり分かりません。(40代期付)  
 ・自分がやった方が早いと思って、やった後に注意されてしまった時。また、そのために雑用や職員からの質問が増えた時。(20代期付)  
 ・領域のような拠り所がないと指針がはっきりせず、何のためにやっているのか分からなくなることがある。(50代正)  
 ・的外れな回答ですが…(領域について自分なりの考えを書かせてください)北海道の学校事務職員は領域を理解していないのではなく、無意識に領域をベースにした実践(事務実践)をしているのではないのでしょうか？現在の学校事務職員は、先輩事務職員の支援や実践の「マネ」から仕事を覚え、それら経験の積み重ねの中で領域実践が身についていると思います。そのため「領域とは」となった時に、難しく捉えすぎて、うまく説明できない＝理解していないということに陥っているのではないのでしょうか。そこを改めなければ困るというか、先にすすめないと思っています。(40代正)

領域を理解してなくて日常業務に支障があるは10%、ないのは71%特に再任用で5名が支障ないと回答しています。領域を理解していないので解らない。意識してないのでいつの間にか領域と付き合っているとの回答もありました。

問8 二本立て運営計画を知っていますか

ア 知っている **42名(82%)** イ 知らない **9名(18%)**

ア 知っている

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員			16	14	6
名	名	名	名	名	名
期限付き		3	3		
名	名	名	名	名	名

イ 知らない

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員	1	1	1	1	2
名	名	名	名	名	名
期限付き	2	1			
名	名	名	名	名	名

二本で運営計画を知っているのは30代～60代で42名、知らないと回答した人も9名で各年代にいました。

問9 運営計画は二本立てになっていますか。

ア なっている **20名(39%)** イ なっていない **28名(55%)**

ア なっている

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員			9	4	2
名	名	名	名	名	名
期限付き		3	2		
名	名	名	名	名	名

イ なっていない

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員	1	1	8	11	5
名	名	名	名	名	名
期限付き	1		1		
名	名	名	名	名	名

・無回答または分からない**3名**

・前任校では二本立てになっていたが、現任校では二本立てになっていなかったで、今(3年目)もしていない。二本立てにしても事務職員の仕事が具体的になっていなければ、理解されにくい。ただし、人事評価では学校事務と分掌業務分野での評価とされているので、当然別々になっていなければならないと思っている。評価する側も明確になっていない段階で、二本立てを理解してもらうのはむずかしい。(50代正)

二本立てになっているのも、約39%になってないが、55%でした。特に50代、60代で16名もいました。  
二本立て運営計画を提示すれば今後も事務職員のポジションが確保されると回答したのは6名で、されないが13名でした。

問10 問9でアなっていると答え方にお聞きします。

二本立て運営計画で、我々の職務が確立し今後も現在おかれている事務職員のポジションが確保されると思いますか。

ア 確保される**6名**      イ 確保されない**13名**      ・無回答**1名**

ア 確保される

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
名	名	名	2	1	名
期限付き					
名	名	2	1	名	名

イ 確保されない

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
名	名	名	6	4	3
期限付き					
名	名	名	名	名	名

ウ その他意見があればお書きください

・二本立てで職務の確立をできる訳がないと思っはいますが、先にこの質問の意図を伺いたい。(40代正)  
・第三者に説明できない事をしてるのに、他者から理解されるはずがない。(50代正)  
・ここしばらくの経過を考えると、確保されないという結論にしかならないのでは?と思う。(何も変化はない)(50代正)  
・領域について説明できていないため、二本立て運営計画で話をしても、他の職員にはあまり事務職員側が考えている「二本立て」の思いは伝わっていないような気がします。(40代正)  
・学校事務職員に対する信頼性・有用性は、主に人格・人柄によって支えられている気がする。(50代正)  
・二本立て運営計画は1つの方法というだけで、これだけでポジションが確保されると言い切ることはできないと思います。(30代期付)  
・「二本立て運営計画」を提示したからといって、必ずしも学校事務職員の職務が確立し、ポジションが確保されるとは思ってはいません。「学校事務職員としての職務や業務」を考えるひとつの手立てと考えています。(50代正)  
・職務確立が必要とは考えておらず、運営計画もそのために作成しているわけではありません。学校の経営・運営スタッフとしての職務・職責を自分なりに整理し、職場内に提案するための「道具」にするのが目的で、その価値観からみれば運営計画を作成した方が良くと考えて実践しています。(50代正)  
・確保されないにしても、校内の教職員へ「事務職員とは」を説明できる機会になると思います。(50代正)  
・複数配置(2名以上)で事務室が整備されていれば、少しは確立されるかも。チーム事務(40代正)  
・事務職員が他の系の運営計画を理解しているかという、不明な所も多くあると思うように、他の職員が事務の運営計画を理解し、二本立て運営計画の意味も理解しているとは思えない。二本立てでは事務職員の職務を理解してもらうための手立てではあるが、これに基づく実践が伴わなければならない。(再)  
・二本立てにしたからには、日頃からそのことを意識して日常実践を行わなければ実体が伴わなくなり、正に絵に描いた餅となる。何に対しても常に能動的でなければ、単なる処理屋として職員に受け止められ、折角認められつつある職務確立に向けての取組が後退してしまう危険性がある。(再)

・領域論は、私たち事務職員が仕事をするにあたっての運動論のようなものと考えています。事務職員のポジション確保のためには、運動論とともに、制度(法的・組織的)の整備も必要と思います。(再)  
 ・体裁を整えるだけではだめだと思います。自分が何をめざしてどういう仕事をしたいのかというビジョンがはっきりしていなければ、運用面で支障が出ると思いますし、周りの理解も評価も得られないのではないのでしょうか。(40代正)

学校間連携については、60代、50代で30% 40代以下は10%との結果が出ています。アンケートの結果を見ると、50代、60代は領域を理解しているが、実践はしていない、40代以下は殆どわからないとの回答でした。また、領域を理解していなくても日常の業務には支障がないとの結果になっています。二本立て運営計画では殆どが提示していないとの結果になっております。また、二本立て運営計画を提示しても、今後我々のポジションが確保されないとの回答でした。学校間連携においても、殆どが理解していないとの結果が出ていました。この結果を踏まえ、やはり領域の必要性は少なく、二本立て運営計画では我々のポジションは確保できないとの意見が多数をしめています。学校間連携では理解しているとの回答が多かったです。

問11 学校間連携を理解していますか。

ア 理解している **40名(78%)** イ 理解していない **10名(20%)** ・どちらともいえない **1名**

ア 理解している

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
1名			14名	12名	5名
期限付き					
	2名	3名	3名		

イ 理解していない

10代	20代	30代	40代	50代	再任用
正規職員					
	1名		3名	2名	3名
期限付き					
		1名			

問12 学校間連携についてご意見があればお書きください。

・学校間連携について理解しているつもりではいますが、他者への説明はできそうにないので、やっぱり“つもり”なのだと思います。文字どおり様々な面において学校間による連携体制をすすめていく、という程度しか理解できていません。(40代正)  
 ・事務職員間の連携に留まらず、今まで、結果的に、学校として助けられる場面が数多くありました。ありがたく思っています。しかしながら、担当者の多忙化を考えると申し訳ない思いで一杯です。(40代正)  
 ・いろいろな制約がある中で、できることからやっていくしかないと思っています。(40代正)  
 ・共同実施の対抗馬というのは理解できるが、制度的に「仕事・業務」を他校の方と一緒にできない状況下であり、研修団体の域を超えないと思います。(40代正)  
 ・色々な形態の学校間連携があると思うが、目的はひとつそこに通う児童・生徒のために学校現場・地域・地教委(行政)が同じ方向を向いて連携することと考えます。旭川版の学校間連携は行政と同じ方向を向いているか疑問です。(40代正)  
 ・旭川の学校間連携は、事務職員間連携の域を出ていないと思います。それでよと考える人もいますが、事務職員だけではない、連携のとりくみを模索していくことがこれからの学校づくりには必要なことだと思います。(40代正)  
 ・連携という言葉だけが、実体が無いと考える。研修と連携は意義が異なることに気がついて欲しい。「連携」ならば、「共有・協働」を強めるべきと思う。(40代期付)  
 ・学校間連携を市教委との課題解決の場にして欲しい。(40代正)  
 ・旭川の学校間連携は、何をしているのか解りづらい。旭事協との違いがわからない。(50代正)  
 ・これは方向性によってはわからない(もっていきようとも思う)。ただ、もっと踏み込む必要はある→中学校区毎の分業化や協業化まで(50代正)  
 ・旭川市の学校間連携が、旭川の経験年数がある事務職員に理解が深まっていないことに驚いています。自らの学校間連携会議を大事にしていきませんか。(50代正)  
 ・事務職員連携から学校間連携へ転換しなければならないと思う。(50代正)  
 ・自分の学校や自分だけで考えていることには限界があるので、他からの情報を交流することは大切だと思います。(50代正)

- ・同一校区小中での連携もさることながら、自治体との連携も強化し、子どもたちや教職員のための教育環境整備に役立つような連携を築く必要があると思う。(50代正)
- ・北海道方式の学校間連携はまったく無意味。事務主幹をリーダーに、人事も絡めて地教委や道教委も巻きこまないとの連携はできない。(50代正)
- ・現在の旭川市の学校間連携は、何かを改善していくというものではない、と聞いたことがあります。連携するのは何のためかを考えた時、やはり「将来にむかってプラスにする」ためではないかと思う。現状把握・実態交流は大切だが、その上でどうしていくかを考えた時、設置者である市教委との連携が避けて通れないと思う。今、チーム学校とか色々話題になっているが、事務職員が複数配置(定数の基準をさげる)にならなければ、組織的な学校運営はむずかしいと思う。(50代正)
- ・領域で一定程度評価しているのは、「財政・財務」とともに「情報」に視点をあてたことでした。ただ、「情報」の提起や実践提案が偏狭になり、「情報」の本質を言い当てていないと考えています。学校間連携も「情報」活動の手段のひとつにすぎず、事務職員の「固有の職務」にもなりません。最近「教育環境整備」に注目しているように思われますが、校内・校舎にとどまるような狭い発想に陥らないよう願っています。もともと「事務」の範囲は格段に広いものです。これからの担う事務職員の方には、経験という時間がかかると思いますが、状況・情報の判断ができる事務職員に育って欲しいと期待しています。処理業務にとどまって満足している「事務員」では将来は見通せません。受動的な「教育事務」から一刻も早く脱却して、能動的な「事務教育」をめざして欲しいと思っています。(50代正)
- ・今後、学校事務についても求められる点が多くなると思われる。学習が現状把握から必要。(再)
- ・事務職員や勤務する学校の課題を共有し、解決するためには有益である。一人配置である事務職員において、各学校ごとに微妙に違う分掌や業務を担当する中で、実践上の課題や問題点を解決するためにも継続発展が必要である。(再)
- ・旭川市としては現在のシステムがベターだと思う。しかし、未配置校の支援については勝手にやっている奴が完全に退職した後は、継続に向けて取り組む必要がある。本来行政が行うべき手立てを学校間連携で行うことの是非は各論があると思うが、あえて学校間連携で行って行政(市教委)に「貸しを作る」ことも、今後の連携にとって有益に作用するのではないかと。(再)
- ・旭川市の場合は、「学校間連携に関する要綱」が市教委より制定・施工されていますので、それに基づいて学校間連携がすすめられていると考えています。ただし、市教委からのブロック会議開催の通知文書を無視する事務職員が存在していますが。(欠席の場合は、ブロック代表に連絡をすることになっています)(50代正)